

公益財団法人大学基準協会による

**「2024年度東北学院大学に対する大学評価（認証評価）結果」
の指摘事項（長所・改善課題）に関する要旨**

作成：東北学院大学

2025年3月25日公開

- ・ 広く一般の方々にもわかりやすく大学評価（認証評価）結果を公表したいと思い、評価結果の要旨を作成し、公開いたします。
- ・ 本学では、今回の大学評価（認証評価）において付された「長所」「改善課題」の評価結果を中心とし、今後「長所」についてはその更なる伸長を目指し、「改善課題」については真摯に受け止め、改善・向上に取り組んでいきます。

東北学院大学の評価結果における指摘事項

長所



基準9 社会連携・社会貢献

「総合ボランティアステーション」を中心とした社会連携・社会貢献の取り組み

地域社会の課題を
解決する人材の排出

基準10（1）大学運営

学長研究助成金
（事務職員業務研究）制度

事務職員の自発的な課題の提示、
部署を横断した改善の取り組み定着

改善課題



基準4 教育課程・学習成果

単位の実質化
（履修登録上限単位数超過）

大学として履修状況の把握や検証
を行い、単位の実質化を図る

基準5 学生の受け入れ

大学院の定員管理
（収容定員未充足）

大学院の定員管理を徹底

長所



長所①

- ① 当該大学の掲げる理念・目的の実現に資する事項であり、有意な成果が見られる（期待できる）もの
 - ② わが国の高等教育において先駆性又は独自性のある事項であり、有意な成果が見られる（期待できる）もの
- （大学基準協会『大学評価ハンドブック』（2023年11月版）より）

「総合ボランティアステーション」を中心とした社会連携・社会貢献の取り組みに積極的に学生が参画することで、学生のボランティア意識を高め、地域社会の課題を解決する人材の輩出を行っている。

➤ 「総合ボランティアステーション」とは？

2023年度に、東日本大震災からの復旧、復興活動を担ってきた「災害ボランティアステーション」を改組し、地域社会からの多様なボランティアニーズへの適切な対応や、より日常的なボランティア活動、学修面のサポート等を目的として設置されました。

長所



長所②

「学長研究助成金（事務職員業務研究）」制度により事務職員の自発的な課題の提示を促し、部署を横断した改善の取り組みが学内で定着することで、2023年度のキャンパス統合による昼休み中の食堂混雑といった課題の改善に取り組んでいる。

➤ 「学長研究助成金（事務職員業務研究）」制度とは？

2014年度に設けた学内助成制度で、事務職員が日頃より問題視している関連業務や課題について複数名での共同研究を行います。(1)事務職員の課題解決スキルを向上させること、(2)事務組織における課題解決活動を活性化すること、(3)SD活動を活性化することを目的としています。

改善課題

- ① 基礎要件の軽度の不備、又は大学としてふさわしい水準を確保するために問題があり、必ず改善を求めるもの
- ② 上記①にはあたらないが、理念・目的の実現のために必ず改善を求めるもの

（大学基準協会『大学評価ハンドブック』（2023年11月版）より）

改善課題①

1年間に履修登録できる単位数の上限を設定しているものの、資格課程に関する科目などを除外しているほか、前年度の成績に基づき成績優秀な学生に加え、編転入学生にも上限を超えた履修登録を認めているため、単位の実質化を図ること。

➤ 履修登録単位数上限とは？

法令により、1単位あたり45時間の学修が必要とされています。1週間の学修時間を考慮し、無理なく各科目の学修ができるよう、履修登録可能な単位数に上限を設定しています。本学では学部学科や入学年度により異なるものの、1年間で40～44単位を上限としています。

改善課題 **改善課題②**

（大学基準協会の定める）収容定員に対する在籍学生数比率について、博士課程前期課程では、文学研究科で0.23、経済学研究科で0.06、法学研究科で0.40と低い。また、同比率について、博士課程後期課程では、経済学研究科、法学研究科及び工学研究科でそれぞれ0.17と低い。

➤ 収容定員に対する在籍学生数比率とは？

法令により、収容定員（学部等ごとに受け入れることのできる学生数）に対する教員数や大学の施設、教育環境等が定められており、大幅な定員超過や未充足は、どちらも教育の質の低下などを招くため、厳格に管理されています。なお、大学基準協会の大学評価では、大学院研究科の定員未充足の数値を、前期課程（修士課程）0.50未満、後期課程0.33未満としています。